1973
2

うつな隨筆

二

鞦隨筆

權道茅仲著

一何条ことなりまを条もおもうせられいとり所
なき空木（ウツホ）のるれ条こ内一控を鞦（ムチ）
の条ひてくれたくもの毛のむさくくしくえん
くるるこい猶かうう
一本人一まを木師のりくく往く雑法のくら
先師六盗仙乃条ら

1973
2

鞦隨筆

權道茶仲著

一何条ことなりまを条もおもうせられいとう所
なりき空(ウツホ)木のるれ条ゝ間ゝ控(ひかえ)を鞦(しなう)
のたれ〳〵もものむさ〳〵ゝとゝえ
ゝるゝゝい猶かうゝ
一本師一茶師のもとゝ往く雑法のゝち
先師六盌仙乃条ゝ

[illegible]月の花の果[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]を[illegible]わらひ[illegible]夏冬ふさ[illegible]
[illegible]讃よ[illegible]の[illegible]花とよろ[illegible]
異風[illegible]
一霊昭女の絵をうけ[illegible]
見[illegible]れもるる何[illegible]賛[illegible]

[illegible]
その[illegible]わ[illegible]
行基菩薩の波羅門僧正のまとうて
直のかたちをうつしきれる[illegible]
[illegible]

春果

一[illegible]の遊女白拍子の名ハ大くら[illegible]
[illegible]つけ[illegible]小野宮大臣の[illegible]
[illegible]遊女ハ香爐(カウロ)[illegible]ハ佛

浄るり採熊野如意観音なりとも也さら
浪もやましさらしとまふさる宝もん
長者も普賢とらふさるる静
微妙あそのうりや今も利生なし
ふ名を合ておりて名義集よ摩登祇とて
女乃無名とあれい祇王祇女もおもふべし
磯の禅師かへりしつらしるそらんきの
いさらなりしそのおもなしもひしや東鑑ふ

建久四年里見冠者義成を遊女の別当
とらすへしとわれいまへる古今の異
らうとしと考へし
一男の伎も人ハえをまそしの字ハ男子う
うりう奥のたふ書くし小男康掉康同
又滷乎無斤男浪をしのとめく通用す
奥の歌ハ斤男浪乃借字ハ相違すべく
万葉ふ左ふ鹿又乎等吉乎奏奈能波奈

[illegible]

[illegible]の書小音[illegible]る字い

訓よとの[illegible]ぐさの附ハ[illegible]ル同と書くこと

[illegible]ハ[illegible]る音ゆく

[illegible]まう潮汐ハ[illegible]竿[illegible]

[illegible]ん小棹ハ[illegible]る音なき附い[illegible]

[illegible]左小簾小男簾棹簾[illegible]

[illegible]ハ[illegible]と書べき[illegible]

[illegible]メウの反ツ[illegible]れ[illegible]

[illegible]と書るんや[illegible]ハ[illegible]方葉[illegible]

楫を可[illegible]可治[illegible]又奈流門能

宇頭之保[illegible]之手路可良[illegible]

一[illegible]ハ[illegible]空[illegible]

[illegible]ると[illegible]例ハ[illegible]皆同韻

[illegible]

一又[illegible]ハ[illegible]の山乃簾寺松の菴[illegible]

[illegible]の月俊成卿のおし舟辨[illegible]辛
都鄙[illegible]
[illegible]月おわる六盤先師も
宮柴[illegible]時ふ宮
変ふ[illegible]一座の奥[illegible]何
[illegible]芭蕉ふ皐月富士眺角ふ
つ[illegible]
[illegible]

あ[illegible]親[illegible]花の子順礼　美德
即涅槃酔[illegible]倒[illegible]秋野　春来
白[illegible]向[illegible]都邑　起雪
掃[illegible]聖わ[illegible]や落椿　仙桂
[illegible]心櫻[illegible]蘇寺　畔水
つ[illegible]仙の若葉　美純
[illegible]
[illegible]月の藥汁　美仲
[illegible]道の蜉蝣　紀裳

伊達川の早舟もたりつくかい又渡
しうなうなうかゆなうの
宮うしのうなん
蜻蛉と新わうけうや又頭巾　米德
白の白い又舟うう　春堂
丸月やうハの宮傳く早とうる　米山
詩う奇うれわうるく　雪小舟　閑宿　阿誰
みうしつく塩の別や蒲團雪　米仲
ううしうしうれのうやうしう

市人や帰市を退居る狩衣　春来
一円意のうあうしうしうれうるうる
きうの白炭の忠知みう白うるうしう
つうる雪の板うくる化例をあうしト宅
うま婦といううのうしうも近寳かれう
いうやま婦というし猫の声とうう
均朋うかく堂うう花のごうしう
ゑうう二人のうしうれうるうる

[illegible]

一梅干し梅酢の別称

禅寺にて見る所法師一好

なかふ梅ちきりに落て梅ゝ　真光

手に拾ひ法師まる梅の題めに撰れる句

なり梅干の白ふくわすまる梅の丸

きと法師ゝ

枝ゝ一夏を過れ梅酢

弘仁九年に草わかり

一拾ひ物食ひ物の部ふ三月ゝ三日を食

ますの日生薑を食ふ

ゝ鄙ゝ雅の膳信濃ゝ

神ゝの生薑祭食品ふ民品ふ

一猿をきらふ梵語の一轉わ名義

集云摩斯吒此云猟猴

一蛛蜘の道とやゝ蝶を花鳥ゝ

仕ましまつる
一伊勢鳴宮内ゝ江戸虎屋藤右衛門子
孫ゝ宮居所ゝ師ゝ流譜ゝ
いせ鳴と仰せあつて諸神ゝ其角
長ゝ事伊勢鳴ゝ流ゝ
一安宅勧進帳のゝ辨慶ゝ俊章
なりしゝもまづ所の勧進帳ゝ
ゝみゝ文ゝ謡文ゝ況や安宅

俊章ゝ
一檜垣の謡ゝ老ゝ
とゝ三ゝ輪ゝ
袋草紙の仮名ゝ
ゝゝゝ傳ゝの遠ゝ
ゝゝゝ後撰ゝ
ゝゝゝ
ゝゝ

年ふるまゝに我ら髮ゝ川の
うちもらしたる老かゝ
嫗（オウナ）の面ゝけ
もらはさぬ人ゝ余の老の殿とゝ
八重帝おかゝ
ゝすゝとゝ
ゝ姿のゝ
ゝ文ゝの字ゝ
ゝ澄ゝ

増賀上人

輪ゝ
博陸ゝ

一流俗ゝ
者人間謂ゝ
ゝ連歌ゝ
ゝ清輔朝臣の説
ゝ中ゝ
ゝ大槩ゝ
人ゝ梅ゝ 雪淀
酌ゝ極ゝ 葵巳
梅ゝ何ゝ 豆腐年 米紙

恩をつむ日向なれや梅の花　春望

人の為にまづ梅を植ゑ

まづ梅を植ゑ

黒髪の男ぶりなれ　梅見　許道

見せまほしかの所守ぶり　諸東

意趣もなそ鏡や　古社　海如

梅ゆゑ白めの俳ちめん　関宿　阿誰

梅ゆゑ道もたのつる　和貢

見ぬ梅の野守ぶやるもあ　萬之

梅ゆゑ外伝の春長うえ　春江

梅ゆゑ待ぬ春つ来　巨龍

春日路傍情

梅の枝風ハ柳の腰を押　米風

雪ふるや老梅の石ふるの　春来

嵩の古郷ありれ名手の滝　紀逸

ふる岩や数の懐垣まち袖　扇裡

嵩ふ一枝長小判の光り　朱明

[illegible]人の拾ふ 采蘋

[illegible]小笹原 庭堂

[illegible]佐原 青蓋

[illegible]毒花 龍眠

一俊卿の説[illegible]

[illegible]穿鑿[illegible]四迫[illegible]

附會[illegible]釋日本紀述義部[illegible]

熊神(クマノヒモロキ) 雄天狗(アマツキツネ)[illegible]

天地(アメツチ)[illegible]山門[illegible]

鶺鴒(セキレイ)[illegible]

益[illegible]

一衣通郎姫(ソトホリノイラツメ)のこと言変記に允恭天皇乃皇女

日本紀に姫[illegible]

[illegible]

の[illegible]公達私記[illegible]

雲の於支天(オキテ)[illegible]蜘蛛のみるましい

てのこゝや年ゆゑ生須らいつれしを
ゑすしくまきし合ハ特のよろしきにはふ
とハ是なるのしるべ
一みか月に月をつけらしきるハすと貞徳の
さしあし説文朏月未盛明とこゝろれたし
訓にみのとりの時ハ三日の月のやうなり按
に日本紀星辰わたり古記云大星を参加保
志といふ今の俗大蜂を参加羽知大栗と

年中行事歌合
三日月ハさのみ
のそらの初
秋の夜を六
ふかの秋
まつるし
是ハ言
なし

参加久利とよみたしとけまことは月いまさと豊
時すましるとも初月のこゝや大いなし
見えるんあくこの月とらゆゑゆや大伴家
持初月の歌ニ振仰而若月見者とも
わりしものりしりにて見ふきくはさるの

夜ハ餘三月の雪をとどりしなり　許道

花影上欄干の懸を探りて

朧としハ橋ノ車轄く鈴の秋　米仲

[illegible]

月かすみ花の雪見すの時鳥　龍眠

忍寝

人しれぬ奥嵯峨の滝月　旨原

朝の月　赤銅色なる月夜の炉　茅仲

十四夜　十五夜　百菴

大黒の銀かぶつや十三夜　秀億

雛ゆえ月夜の月見　茅仲

[illegible]

明月いつれの夜か十二夜　京太祇

月の極の美しき　常樹

月迎ふ雪の夜　春来

月の夜　桔梗花　買明

閑伽桶に風雨の月夜哉　茅德

一貞徳説に[illegible]

[illegible]

[illegible]

いとゝ打ぬ今宵の窮鑒の辨あり是を
阿加曾伎乃加波多例等枳爾なり万葉よ
りれを考へ
一鶏冠井良徳ら書けるあか貞徳いとゝ誹
諧とらの字篇(ヘン)ワ(ワリ)高方ら見れい
ゑ葉ふれしいかわるゝまし流れ
連歌の風流ゝ河しいとゝらいふを
いつの故なりしとゝるれるい長頭丸のん

しも畫す良徳ふかうるゝとさのし
ゆ〳〵おもわるゝわ何のゝる夏丸
大ゝ一のゝ山ゝ
一わゝ〳〵共角ゝ時三鳥傳授のゝし
ゝ角角ゝ作ゝ稲負鳥を馬
ゝ猿ゝ
わゝれゝ佳ゝ
劇ゝ

かゝる時其余それのれも存まて俳諧之道
ゆく所からしまうし也殊勝く
たしまるりしや
一西山宗因ハ居ノ雅宿のあるしある人ハ此
俳諧し侍りし添削を宗因へ頼れもる
うへとまてるとくしう山の花ハ家
宗因いうくわりしうきれし連哥めきたら
くねめく匠らくしく

花見衆やたえつまりし東叡山
即時わ川出しう松勝としれんと
霞ミけり押も車坂
ちうきれしうえしらう山のる連哥
ゆかしるしや雨のふらうハや
雲火ハ雨ふるのわりかきり川　宗因
鶯けや念佛ハ花生節ゟの作　同
一俳諧の流りも時ふまわしかうふ所安

櫨林十百貫
嶽門の眼かゝ　正友
かゝ金かゝ　一わしのゝ色　雪紫

又

上京下京しられゆゝ　卜尺
紅のれりの木の葉衣とるゝ　立色
見上るゝ　つゝ　延寶のころ
後りまら　當世のゝ　のるい

もつけ　きくもこい　ゝ
一ゝ　つゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

みやこつくに當世ふかき心

一芭蕉の句のかりそめなれども文の

花見と鐘と上野の清章一句

ちりぬ　雲にはのうつりけり

散捨てる花のくもりなき月　米山

拔ぬ　かの笑ひ声もなし　秀曉

ふるの山寺ふる仏令の仲　道院

花のもと二月ぞ　文六月　米仲

行くに鐘うつ花の山　子間

本光かれいと橋や鹿ちり花　巨龍

順禮の棒をつく花見哉　黙斎

酔見し酔れいつのかもんね　許道

山のさくらの月をうねれい

山の僧都のくんけり

うくひの花待ちつ谷の町　米仲

谷の花ふくく世利哉　米年

利捨く櫻の奥の月夜の角　田旦
道灌の俤ふる山桜　百義
狼の中伍待ちさくら　田社
武櫻待ちく初花ぞめの　曽嵐
三千世界を眼前のつくしから
人上ぢりのさくら
この花の咲いちらさまさくら　梅郊
散きくのうちも若き櫻の外　春堂

上見ぬ櫻ト思ひ立ち久良　韋雨
鐘撞の花のれを厭ふさくら　環山
東叡の仁王門
いつまでもさくら
沖山ものの仁王といふ櫻　米仲
咲ふるも枝ふるさくら　嬉桜　載二
櫻の外ぬき巫女のかぶる雪　青州
雪掛のさくら眠るさくら　由雅

ある人のかたらく四天院の晩鐘と
いふる歌をたてまつりきれいとそる
見とをもて歌うへ　珠来
白きれと同みも集のさうぶ　茅儀
下ふかくも人か解し山をそこ　吐月
歌のうら深き東京雨かきりろ　太祇

一宗釋論云大自在の朝か金とりつくる像わ
深其高サ六丈獨瘡を眼とす大か神驗わて

求願うるに得る時か龍樹の弟子提婆（タイハ）の佛菩提婆達多と混すうるに是かうく曰神ちうとい神しかき
精靈をりくにあるを削するを帳（カル）か黄金瑠璃を
りくせと威炫（サケン）する何ものくに鄙（イヤシキ）やくく
椙（カケハシ）か眷りく神の眼を鑿（ウカワ）くと金脉玉眼の佛
像ちくいくくく提婆ごとくるる和ちくく
一阿耨多羅三藐三菩提（アノクタラサンミヤクサンホタイ）と秦無上正徧知道（ムシヤウセウヘンチタウ）と
飜（ホン）て今の沙者くすくく無上靈寶神道（レイホウシンタウ）と

[illegible]

一ある日素堂我家に是非にとおもはれける
年ゝ四季ふるる時流れけ[illegible]き迄
埋火と力ゝ[illegible]もるふいつのまゝ夜のゝ
小神ゝ火りえつまゝるこゝ迄ゝ[illegible]
[illegible]ん起よくこゝ[illegible]ふゝ[illegible]
[illegible]ゝ月こゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

一

慚愧

所ゝ[illegible]の煙もれのゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

春来

花間ゝ[illegible]ゝ[illegible]序

造化景色も視ゝ動ゝ聽ゝ次ゝ用ゝ
[illegible]ゝ四時ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

やう梅の花ちらんとする人まくの声やう
けい遠そふよ紫の南わうもたのつうう
ゐる風薫しあとにむしろうあ世の脇指よ
醉醒の蝶とおくゝ堂とつくゝ堅硬
まれい国の風とを今やさしかと言ふる
角の草木をとを角るか龍田姫の御衣を
わもの戸をたる月うけおい立つくうう衣し
笑年ふふく薫嵐塞向し時うれいなり

よを咲ゝふ丹波のこゆあいもまれこ
ゆきとうくあしやと文徳家あう
と角よ花ゆよの紅向ゝ風ゝ吉とろ
の新ゝうゝうれくの通行れめ交
ゝ世西氏の何ゝ金力と祝ゝ用し
松ゝみゝくゝ予ゝ百花園の吉ゝ
ちうまく真こうゝのゝ花が
くゝく是と議ゐわゝ角とのゝて住

[illegible]の御霊とて[illegible]持て[illegible]やうを
贈りね
[illegible]や歌めも大工[illegible]の名　六益
一京[illegible]
[illegible]おもふ祇王祇女佛カ自ら四跡と
[illegible]る所わ[illegible]
[illegible]
[illegible]集わ諸人一同[illegible]の

名の[illegible]和名鈔云古語老母為負又俗人謂老
女為負ト習ノ字今誤以貝為自ト和名度之又呼老女
為太宮女ト又手佐女故況於負耳[illegible]カ自
と嫗專の同ふ[illegible]入れい老女の稱[illegible]
[illegible]曾我物語の刀貝し負の字をけ[illegible]
[illegible]と負の字[illegible]カ[illegible]
又顕輔朝臣い早苗女の説めく[illegible]
[illegible]

[illegible]浄御原天皇の[illegible]人字と氷上大
刀自[illegible]大伴佐手丸の妻の字奈刀自
端正美麗の故海部[illegible]
[illegible]老女あり[illegible]刀自
八宮女[illegible]続日本紀[illegible]説
嬬[illegible]
青柳[illegible]
紙雅の[illegible]甘棠

雅[illegible]
[illegible]の鴻の[illegible] 羊運
[illegible]の[illegible]大根 小鳴句当 露美
賜[illegible]氏[illegible]雅柔 曉羽
寺馬三人
[illegible]人[illegible]の豆 羊仲
[illegible]雅 汶長
[illegible]妻[illegible]邸 都十
[illegible]の月 羊仲

人毒となりて人を害する事　茅宇
うけ香のいつくとなく更衣　朱明
梅漬やくぐつの色の濃やうす紫　畔水
廿中客ゆるすねの色の牡丹の仲　茅幸
蝶蛾花まとうやわかすしい　春望
中村人茅の和人の衣の喪かとうれ
いふ人の手ときとうれ書く都く
登りもるるうちの便ふしまとて

まんとうふうの更衣　茅伸
せんくく蚊ふうきみ捨る紙燭　百義
ら忙はしくさんく
茅の女蒙民うく蚊屋ふ清もう　佐原青藍
ちつの民わ蒙帰う中ノ江う道　章雨
牧も抑も入まう待夜の蛸の鎮　雞口
藻うう松蔵と四郎ふく茅頭ふ　機メ
ちうれ男の垣ゆ造るあふふ　萍社

風かおる唐絵の女きしの色　尾州鳴海　蝶雲維

早舟に揺られて起る今朝の秋　茅帆

色紙にうつる世間や星うつる友　茅仲

ちるや妹がさとふるわらい　茅策

早乙女や揺籠角の格子の角　茅岑

うつる玉の鳥うつる羽風や毒ひく　碑朋

ちるふるしく今宵は星の夜ちり　茅仲

御姫の三八ろうや大角豆畑　山子

一

兵衛帰るく我屋もりれよりて合　文牽

滝ちるや小姓ひかるつらしも　畔水

小町といなりちるやまの躍子　慶子

朝露や星ちるるの花ちるさ　汶長

なりひら時ちるの声　尾州鳴海　鉄変

白雪や人の知るく十の指　曽嵐

名仙のお花ちるの女武者　章雅

理火の女のちるひ更けまち　汶章

[illegible]と人の指す頭巾うち　春望

書こりる草と埋み雪の糸　環山

一樽と毒くれたりへ冬ごもり　友以

[illegible]師やま同の入石迄ま竜ヒとゝ

村ふ霜のうしらを利りたゝろの蛟

とつゝもなゝ[illegible]へ強し[illegible]ま蟬の者

わゝうゝこふ[illegible]ふ[illegible]られいれふ

のわゝをゝふゝこゝすも通お

ゆふわいお故人参扇のゝらい吉

異郷ゝるのたりしら[illegible]おゝゝ

ゝゝよ心ゝゝふゝくゝゝゝれ

くれゝゝふ一夜のゝゝまゝやわる

へ和のゝのをゝれゝゝれ雲ハ

姥の夜見川合ゝるふ心ゝ

ゝゝゝゝゝゝ

老ま婦ゝ[illegible]ゝ寒ゝ　黙斎

世ゝ乃ふ和のわゝゝゝ黒頭巾　茶帽

一都鳥ゝふゝふゝ鴎ゝゝゝゝ

一 すみた川をむしとして詠る
ときに丹のくちはし赤
水のうへに遊ひつゝ魚を食ふ京に東国に
鳥なれハとおしらすわかるを感字公なるを
ある殿上人ゆかりつけられて答ひあ
なまもちて万の虫をとらせけれは
ろしふるし文保鴉鴟沢の都鳥ハ全く
鳥にわらす人ありといふことをなるに

伺ひし羅山先生の丙辰紀行にいはく
都鳥とすみた川のもの是れハ鴎也の
人しらぬ家にし飼ひけるを見ぬるに誠に
嘴しろく赤き鴫の大きさなるにより
蛤とりのこく啄ミをつゝとあれハ此も
ぬかゆくもなりきれ

一 むかしの長点ハ巻中の秀逸とするにその
作風流にうつくしく趣ある句を長として

掖群といはれし法德いまく登り豚丈三
まくい主客功者のすることわれかさる
ことかくいはまこまくもと拙ることしと
なり近来は発句ばかり表八句大きめ
ものかめく味噌藁ことめける法德の
ことものいとつくかめら豚翁のことものも
今いはは一句ばかりかく意味の差別なる
一千載集　の月三夜の月を

一

秋の月千ことかんとてとてとて
こしいつ夜ものみてすまるる
はらことを千ことかくやはの月　真角
うすくく似れるしお歌ることとん
はあるへまるのはくく雨ることまる
古今の詩をまるやかへまる寄一
一まるぎまらふ言葉いまるぎるのんかく
速の字ものもも未来と書ものはのもの

久字まんも不自由なるやうにまし倩字の

一源廷尉義経著赤地錦直垂紅下濃鎧駕

黒馬にまたがり義経の鎧紫ときこゆ

見るにより呉藍（クレナイ）も黒赤の間色（カンシヨク）にまし

ゆく緋（ヒ）色にまさる別し唐令衣紫（ヒ）為上

緋（ヒ）次に緑（ミドリ）為下（ト）にまたがり紫の朱（アケ）ときこゆ

にまたがり袂奇茜（アカネ）根の深きにまし

ゆるやにまたがる接する所

一にまたがるの色にまたがる

用にまたがり是中二日のまたがり

きこゆるもの

獨寝獨不（小宗にまたがるふさと）

玉棚かきさはをわんぬ　春米

はかりは地ぬ　盂蘭盆の月

辻施餓鬼是をまめつ月かたり

赤彩に西瓜腹ハ安差別

[illegible]秋の味噌すり坊と細所坊
けせう鼓[illegible]くこ[illegible]川の滝
[illegible]音の躍[illegible]居[illegible]くて
[illegible]の口の[illegible]
[illegible]寺[illegible]く罪[illegible]草[illegible]川や
三日の精[illegible]
蓮の[illegible]鐘[illegible]
[illegible]月[illegible]遠[illegible]の[illegible]

[illegible]
[illegible]の月[illegible]
[illegible]星[illegible]の車[illegible]
露の世[illegible]
[illegible]書[illegible]
[illegible]の不化の[illegible]
常[illegible]

石摩ハ白光よりもてはやし
かいこ白もしのきふあるけ
欠落の[illegible]も京の[illegible]
いこ[illegible]の[illegible]
柳絮の法師ハ勝[illegible]れ
なまじひの牛や[illegible]
白瓜の馬[illegible]
所[illegible]法[illegible]月[illegible]

鼻の下達之佛も秋の声
振[illegible]露[illegible]
やふ入ハ法の用の百[illegible]
[illegible]のわ[illegible]
ぐ[illegible]
[illegible]書写山の僧
[illegible]
[illegible]

人の中くもしそのつきをと
夜のつきのれるまいりの
こ合ていつ回しきもみく
きれと人わ見てまわくく
ゑくゑ氏とうれ〳〵

一八月ろのひう誹諧ふ盃とみるをを
時此事所のつく李白ら思君不見くく
清溪(セイケイ)三峽(サンキヤウ)の間ふ月をりわひるみ
ろくし良夜のら白ふ君とうらて

月わ
なくやく
名月わ
君ふらる
ろの内く
ろわのくも世
猫くくわく年の趣
に南な

春楽

先祖より我新まし月の友　存義

頬杖かうるまくらもの月　淳社

名月や峯とこの間の鹿の鳴　黙斎

新月はまくらの伸ふ淵額寺　栖雀

さらぬ更て箱根はの月のあるかな　雪淀

新月は海も霞りつ堅うや　茅仲

名月や雁の来るこころ　周弟　阿誰

月や洗のれ雨の野川まく　春江

元旦をかうまけ見れば月　茅幸

くらの内の衣きわ山の帯りし　珠来

名月の中く来れや草の伸展　吉門

生涯や今年の月は新と嘆く　茅仲

是は月はるる秋のこし

月今宵四角の親たく　子間

盛長より酌とうまくもの月　柳尾

一日からふいつるこ今日の月　佐原　百道

名月や人かうらうる海の荒　平砂
有明のうく生て居てきぬの月　紀逸

旅店

いてや月国を隔て陰ふ里ふ十三　采徳
秋勝ふ人の新置く月見哉　佐原 青藍
酒ふるまとさらえやきぬの月　采仲
片隅の蚊屋ふ絶いぬきぬの月　十曉
名月やゆるる親ふ叱ける鳥　朱明

雄しきふ寒し今日能都壽　環山
名月や佛ふ居ぬる星斗　梅郊
ふるふふ不用の人の月見哉　采仲
古き世のりよう月見哉　雅口

竹裏月

荷ふふ欲ふ弁の月　遊翁
名月や毎るる中帆ふ百本　道院
名月や今宵ふ虫のふく成ふ　龍眠

利頃や待宵月のくもゝ歌　春望
空にぞ[illegible]月の色　露牙
関守の[illegible]いりれつ[illegible]るの月　女民

一経　金銀瑠璃珊瑚琥珀なと備くゝ
美音梵音相交る瑠璃の梵語ゆゝし
青色寶と譯を頗梨の翻水精也

一君とらふ言葉いとらくもゝくゝ
将軍義尚公近江鈎里の陣中一内

より後土御門院御製をあらく
君すゑんい人のくもの鈎くゝ
さゝをいとくふ治めなくゝめ
義尚公のへし
人人鈎の里くゝのくゝ
直くる君代ようく
一木曽殿おいあつし巴くゝ二人の女将軍
わり葵くゝ去年くゝふゝ山の合戦おくゝ

[illegible]

鋪繪いとのこと[illegible]

幸ひ不幸ひ軍防令ハ征行者皆ハ

將帰女自隨上

一二襲斬貞室獨吟百首

秋日從女院所稱摺出舟ハ勅撰

と曙のこと[illegible]

とゝ官領[illegible]

余[illegible]

[illegible]百首[illegible]

曙の撮[illegible]

の[illegible]

[illegible]

秋乃山　貞室

類稍ナハいとの心[illegible]

一佐成宣家宗隆の卿[illegible]

[illegible]高位[illegible]御堂

道長公一條兼良公にてとゝのへられ
又和哥の德かゝるゝ柿本朝臣人麿山部
宿祢赤人と青かゝるゝあかさはなりしや
亜相菫門にてとゝのへらるゝほの西落ちゝ
ゝ故あるゝ
一大國しゝ御息所関白をとりこれゝる時
しもの家わきい禅門としなりとも
東鑑に清盛入道をとゝゝ平相國禅

國とゝゝゝ頼家卿とゝ左金吾禅門と
わゝ是ゆくゝもゝゝ身ゝ
一小野小町の遍照とゝゝゝる寺ハむ
つゝよ清めゝ時ゝ見し後撰
あいゝのゝ寺わ國ゝゝゝ書わゝ
ゝれゝ後撰の異本よい遍照と素性
とゝ深いゝゝ不審しゝゝのゝる
ゝわれいゝゝゝ迫ゝゝゝゝゝ

一近衛院仁平三年四月鵺（ヌエ）と云る怪鳥の
内裏の上に鳴こと兵庫頭頼政勅を
うけ射奉るに是射奉るに此夜
・
あくに常の鵺（ヌエ）鳥と見あやまり訓抄に
云る食院御殿の上に鵺のなきこと有
きこしめし頼政に射とらるる畏て宣旨
をうけ内中にかけるに至てあやまちい

さ未だ射とる事なし然る間の空間ふ
あくあるべきにあらざるなり
亦異形の怪鳥の出たるか怪の二字よりて
後人作為をもつて諸書に記院の
御宇に有り十訓抄に高倉院と見えたり
等々頼政卿の鵺を射とられしと
有るべきと云書あり正史に見あらず
一寛文の比に出る非李詞のごとし

うけうふ　とん日う　花嬢・花舞

天川　雅楽の須ら　梨椿葉ふる

夫孤の教　くまく　霜うつり　池潛

の底り　かたうつて　一白の　深めくるの

松のくの　李ること　當風　法池水月れた

ふふや　池の　沼るる　つの　臭られも

泥干と　名目小　押　出ていまる　例

ゆしふふ　ふふ

糠味噌の　ふんもあ　潮干狩　泄草

松ふる　足ふる　蛸ふる　汐干うれ　米仲

人もふ　沖の　鳴や　ひ潟　常樹

ふ蜀と　鱗ふく　陰干　中和

足前ふ　清ふ　流ふく　潮干うれ　春来

舟ふふ　陸ふ　ケの　潮ふ　其風

乙姫の　ふく　見る　潮干武　米仲

望ふ　舟ふの　ふふ　碑明

田み[illegible]拾ふ蛙や歌の案じ色　湖十

白魚い周ととろろるまるまる　五紘

とろろ魚い海と徒り用う炉　茅伴

小魚の大きと出産る鴉の角　吉門

白とろろ大魚をぬるや[illegible]　再賀

白魚の個が昼ろ[illegible]ろ鱈　茅伴

[illegible]ろ[illegible]ろ[illegible]の里　湖海

蛙[illegible]の雨のかうら河　西山氏 魚川

傘へまとろろ迎ふうつつ炉　臺簫

声ゝやが田の蛙と降日士　友以

釣竹とのまゝ蛙の夕炉　茅審

菖蒲の橋のトゆく胡蝶　飛鯨

ぱの鳴ふもれつゝ人やさろ貝　機夕

一個ゝ白ふいさろろ[illegible]　茅忙

浮ろろふ育っし風ん　緑子周

雲ゆれろ温泉を味く川や鼻雨　春来

きみまれや浪さへめぐる青柳　茅仲

扉秀も三河稼内うかつまる　蓼

明星ふ鵜舟もゝ暮て庵ゝ　茅鳳

ゝゝ中ゝ

ゝゝけるゝ今ふ鵜ゝとつゝ

月のゝゝ

ゝゝゝの郭

みゝ夫の中ふ青ゝ鵜舟ゝ　黙荷

うゝゝ夫ゝ夫ゝ鵜舟ゝ　許道

我親も流ゝゝゝゝゝ　牛呑

蓬の庵ふ酒のまゝ庵を獨ふ　西山　魚川

涼ゝゝ松ゝ法ふ浪のゝゝ　十曉

形代ゝゝ扉ふ須ゝ赤石　永機

蛍ゝゝゝ川ふ　茅仲

秋まゝ舟ゝゝゝ柳ふ　春堂

川中ゝ夫ふ見る秋のゝ　海如

ゝ稜の音伺ふ蟹ゝ　行鉄　茅仲

村居望陽

[illegible] 春来

湖のうらわの[illegible]の暮 買明

羅漢寺の月殿か舟中いとれぬ

なく鳥や三日月の月の園 羊仲

[illegible] 再賀

[illegible]の夜[illegible] 永芳

鶯や[illegible]の水[illegible] 牛呑

川[illegible]く[illegible]渡[illegible] 旨原

[illegible]の朝[illegible] 羊山

火[illegible]野[illegible]人待時雨 清泉

波[illegible]舟[illegible] 慶子

[illegible]の千鳥 東也

わ[illegible]衛 春来

猜[illegible]待[illegible] 平砂

鉢[illegible]恩[illegible] 祇亟

あらしをの雌島雄島やあの道　羊字
み島い水の玲をとゝすまして　菊丸
千島うれ行舟和歌浦　四川
みるふまゝ月のさんあ長沙　青霞
水島に居まゝ比わせ川　花鶴
うらやあをとうゝ　碑明
満ゝり潮の連る波生海嵐　和貢
後ゝあゝと鶴のつゝ寒　呑江

鴨つゝ岩ゆゝふへのうす沙　羊審
松ゝ迄ゝみ浪を追ふ千島　萍社
草枯や馬場の仏ゝる野路の川　匂灼
あゝゝ鳴ゝゝふ千ゝるの羽骨の和　海如
岸信の湯舟ふりゝまゝれ　百義
御松や羽代の庚の膝ゝ下　中和
巨燒ゝゝをゝ陸ゝ夜の千島　紀賞
本ゝ下ゝやゝい劔の星の新　春来

一集仙傳云〻の道士あり瓶(モタヘ)に酒を滿し
以教〻りくるい能く是を飲(ノム)すれとやふ仙去
すれとも時に麦とうつ者あり全家
挙(コヲウ)〻是をのむ一時小輕〻挙(アカウ)〻空裡より
麦とうつ声とき〻のごとく空中の
ひきつゝむ唄(ウタ)伺の為ちわ〻ん笑ひ